

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年12月3日 NO.63 (163)

3年生 「ミカンの葉っぱって、とてもいい
においがしますね。」

3年生 「どれどれ、ぼくも葉っぱを一つ
取って、ちぎってみると・・・。
あ！ほんとうだ。いいにおいですね。」

モンタ博士 「そうだろう。自分の鼻でかいでみると
そのいいにおいがよくわかるね。
五感を使って観察することは、
とても大切なことなんだよ。」

3年生 「モンタ博士！このにおいは、ユズのお風呂のにおいと同じですね。」

モンタ博士 「そうだね。ミカンもユズも同じ仲間
なんだよ。それでは、今度は、その
葉っぱをお日様や蛍光灯など、明るいものに透かして見てごらん。何か
気がつかないかな。」

3年生 「え、どうすればいいのかな。こういう
感じでやればいいのですか。」

モンタ博士 「そうだよ。何か見えるものはない
かな。」

3年生 「ぼくにも見せてよ。あ！葉っぱに
とてもちっちゃい点々があるよ。」

モンタ博士 「気がついたみたいだね。葉っぱに
このように小さな点々があれば、



その植物は、ミカン科の植物ということなんだよ。これをね、油点というのさ。レモンもグレープフルーツもキンカンもナツミカンも、みんな葉っぱに油点の点々があるよ。よーく見るために、虫メガネを使うともっとよく見えるよ。」

3年生 「ほんとうによく見えますね。大発見ですね。」

モンタ博士 「そうだろう。虫メガネはね、『科学の目』だよ。一つおうちにあると、いろいろな物が観察できて楽しいよ。」

3年生 「そうだ。今度おうちの人に買ってもらおうっと。」

モンタ博士 「いままで気がつかなかったことに気づくことは楽しいね。ところで、次にミカンの実そのものをよーく見てごらん。とくにミカンの表面だ。何かわからないかな。何か発見できないかな。」

3年生 「モンタ博士！表面を見ると、なんだか凹凸とじていますね。」

3年生 「あ！それから、ミカンの実の表面にも小さな点々がたくさんあります。」

3年生 「モンタ博士！これも油点ですか。」

モンタ博士 「ピンポン。その通り。油点といたけど、正しくは精油のたまった油室という、油のお部屋みたいなものなんだ。」

3年生 「え！油のお部屋ですか。」

モンタ博士 「つまり、ミカンの皮をむくと、特有のかがりがするのは、この油のお部屋がやぶれてこわれるからなんだよ。それでいいにおいがするということさ。」

3年生 「へえー。そうなんですか。」

3年生 「モンタ博士！ちょっとまって。」

モンタ博士 「ちゃんと待ってるよ。モンタ博士はどこにも行かないよ。」

3年生 「今、油点といたけど、『あぶら』の点ということは、もし、ひょっとして、油だったら・・・。」

モンタ博士 「油だったら・・・。どうなるの。」

3年生 「油だったら、ひょっとして燃えるのではないですか。」

モンタ博士 「ほほー。素晴らしいことに気がついたね。その答えは、まだ明日ね。」づく...